

Title	京大広報 No. 123
Author(s)	
Citation	京大広報 (1976), 123: 550-553
Issue Date	1976-04-02
URL	http://hdl.handle.net/2433/209568
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

京大広報

No. 123

京都大学広報委員会

昭和51年度入学者選抜学力試験の結果について

昭和51年度入学者選抜学力試験は、さる3月3日（水）から5日（金）までの3日間にわたり、国語、数学、外国語、理科および社会の5教科について配当時間計11時間30分の筆答方式によって

行われた。

なお、学力試験合格者氏名は、さる3月19日（金）に学部ごとに発表された。募集人員は2,506名であったが、各学部における審査の結果、合格者数は2,521名となった。学部別の受験者数および合格者数等は下表のとおりである。

昭和51年度学部別受験者数、合格者数

学 部	募集人員	志願者数	受 験 者 数	欠席率	合 格 者 数	合格者得点	
						最高	最低
文 学 部	200	1,096	916	倍 4.6	% 16.4	206 (55)	732 563
教 育 学 部	50	269	227	4.5	15.6	50 (18)	698 558
法 学 部	330	1,482	1,251	3.8	15.6	336 (8)	708 570
経 済 学 部	200	930	761	3.8	18.2	202 (5)	704 573
理 学 部	281	1,281	1,078	3.8	15.8	281 (11)	726 572
医 学 部	120	769	583	4.9	24.2	120 (7)	767 646
薬 学 部	80	271	234	2.9	13.7	81 (58)	640 518
工 学 部	945	2,757	2,374	2.5	13.9	945 (5)	710 462.6
農 学 部	300	1,084	943	3.1	13.0	300 (29)	667 512
計	2,506	9,939	8,367	3.3	15.8	2,521(196)	

(注) (1) 受験者数、欠席率は最終日（社会）のものである。

(2) 合格者数の（ ）内は女子で、内数である。

(3) 各学部とも900点満点である。

京都大学創立七十周年記念後援会助成金について

京都大学創立七十周年記念事業の経過については、すでに昭和45年11月27日付け京大広報No.44で報告されているが、そのとき残された事業の一つである国際学術交流のための奨学資金（教官の海

外派遣費および海外学術研究交流に対する補助）の設定については、早急な実現が望まれ、学内に設けられた記念奨学資金設定準備委員会において数次検討を重ねた結果、昭和49年6月4日に「京都大学と海外の学界との交流を促進し、同大学の学術活動の発展に必要な援助を行う」ことを目的とした財団法人京都大学創立七十周年記念後援会

(以下「後援会」という)の設立をみた。

本学では後援会設立と同時に、後援会の助成金の交付を受ける者および事業等を決定するため、京都大学創立七十周年記念後援会助成金選考委員

会(委員会規程については、昭和49年6月21日付け学報第3585号を参照)が設置された。

この委員会で決定した昭和49年度と昭和50年度の助成金交付者は、次のとおりである。

1. 第1種(海外派遣研究員)

本学教官が、専攻する学問分野等について研究のため、海外に派遣される場合に助成金(往復航空賃および日当・宿泊料)を交付するものである。

派遣期間 1) 1か月以内 2) 約3か月 3) 約6か月

年 度	派遣期間	所 属 部 局	職 名	氏 名	研 究 題 目
49年度	6か月	文 学 部	助教授	中 川 久 定	ディドロ全集の校訂、注解のための研究及びフランス百科全書派の文学理論・日本論の研究
"	"	東南アジア研究センター	助 手	福 井 捷 朗	自然環境と農業との相互関係に関する研究
"	3か月	法 学 部	教 授	川 又 良 也	海上運送人の民事責任に関する比較法的研究
"	"	農 学 部	助教授	亀 谷 晃	農業経済学と農業会計の調査研究
"	"	霊長類研究所	助 手	岡 田 守 彦	霊長類のロコモーションの比較生機構学的研究
"	1か月	教 育 学 部	教 授	小 倉 親 雄	欧米における図書館学思想の展開と現状
"	"	法 学 部	教 授	野 口 名 隆	人民戦線の研究
"	"	経 済 学 部	教 授	前 川 嘉 一	タイにおける労使関係
"	"	理 学 部	助教授	柳 田 充 弘	ウイルスタンパク質の構造解析
"	"	医 学 部	助教授	上 野 陽 里	原子炉医学利用設備の建設とその運用についての医学的側面からの調査研究
"	"	医 学 部	講 師	上 羽 康 夫	手の外科に関する研究調査及び会議出席
"	"	薬 学 部	助教授	入 江 寛	インドール及びイソキノリンアルカロイドの合成
"	"	工 学 部	教 授	小野木 重 治	高分子物性に関する研究調査及び工学財団研究会議に出席
"	"	工 学 部	助 手	大久保 恒 夫	高分子触媒に関する講演及び研究調査
"	"	教 養 部	教 授	藤 岡 謙二郎	オセアニアの都市地理学的研究
"	"	結核胸部疾患研究センター	助 手	泉 孝 英	肺ベリリウム症の予防・治療状況に関する研究調査
"	"	原子エネルギー研究所	教 授	桜 井 彰	原子炉安全性に関する熱伝達問題の研究
"	"	経 済 研 究 所	助 手	逸 見 良 隆	公共経済学に関する国際コンファランスに参加並びにその基礎理論の研究
50年度	6か月	法 学 部	教 授	阿 部 照 哉	ヨーロッパ各国の憲法裁判の比較研究
"	"	教 養 部	教 授	溝 川 喜 一	資本理論の研究
"	"	防 災 研 究 所	助教授	野 中 泰次郎	骨組構造物の塑性設計法に関する研究
"	3か月	文 学 部	助教授	清 水 善 三	インド及び東南アジアにおける宗教彫刻の調査研究
"	"	経 済 学 部	助教授	赤 岡 功	社会・技術体系論にもとづく「責任ある自律的作業集団」に関する理論的・実証的研究
"	"	原子炉実験所	助教授	山 岡 仁 史	高分子化合物の光及び放射線分解に関する研究
"	1か月	文 学 部	助教授	竺 沙 雅 章	敦煌・西域文書の研究
"	"	教 育 学 部	教 授	河 合 隼 雄	心理療法における文化差の問題の研究
"	"	理 学 部	教 授	森 主 一	陸水生物学の研究教育状況の調査及び太平洋学会議出席

〃	〃	理 学 部	助教授	松 岡 正 浩	非線形光学とレーザーに関するゴードン研究会議への出席と研究調査
〃	〃	医 学 部	助教授	山 田 淳 三	国際実験動物シンポジウム出席並びに実験動物の系統維持に関する研究調査
〃	〃	薬 学 部	助教授	村 西 昌 三	A p h A アカデミー(学会)出席と生物薬剤学研究調査
〃	〃	工 学 部	教 授	中 島 章 夫	アメリカコロイドシンポジウムに出席及び高分子化学に関する研究調査
〃	〃	工 学 部	教 授	得 丸 英 勝	システム理論に関する研究調査及び第6回国際自動制御連盟会議に出席
〃	〃	農 学 部	教 授	沢 田 敏 男	水利施設に関する研究及び国際学術交流に関する調査
〃	〃	化学研究所	助 手	細 野 正 夫	繊維化学に関する研究調査及び米国化学会百年記念後援会出席
〃	〃	ウイルス研究所	教 授	植 竹 久 雄	第3回国際ウイルス学会出席及びウイルス学に関する研究調査
〃	〃	基礎物理学研究所	助教授	小 沼 通 二	第10回素粒子物理パラトン会議及びヨーロッパ物理学会高エネルギー物理国際会議出席並びに研究連絡

2. 第2種(海外からの招へい学者)

海外から学者を本学に招へいし、講義・研究指導等を依頼して、その分野の研究の発展をはかるために助成金(往復航空賃および滞在費)を交付するものである。

招へい期間 原則として2～3か月

年 度	受 入 部 局	招へい学者名	国名・所属機関及び職名	研 究 題 目
49年度	工 学 部	Gerard Blachere	フランス国 国立建築研究所長・ 国立高等工業学校教授	都市計画
〃	教 養 部	Roman Stansilaw Ingarden	ポーランド国 コペルニクス大学教授	微分幾何学等の共同研究
〃	人文科学研究所	中国 北京大学社会科学代表团(8名)		京都大学と北京大学との各専門分野における学術交流を推進するため人文科学、社会科学部門での学術講演、懇談会、分科会等の交流を行う
50年度	理 学 部	Heinrich K. Erben	ドイツ連邦共和国 ボン大学教授	古生物及び現生生物の硬組織の生鉱物学的研究
〃	医 学 部	Guy Roy	カナダ国 モントリオール大学準 教授	非興奮性膜の生物物理学的研究
〃	医 学 部	P. N. Srivastava	インド国 ラジャスタン大学教授	放射線の化学防護並びに放射内部被曝についての実験的研究
〃	工 学 部	赤 祖 父 俊 一	アメリカ合衆国 アラスカ大学教授	超高層物理学

3. 第3種(海外派遣学術調査隊)

海外に滞在して調査研究を行う本学の学術調査隊であって、原則として国費などの支給を受けるものを対象として助成金(所要経費の不足額の一部)を交付するものである。

年 度	代 表 者	調 査 名
49 年 度	理 学 部 助 教 授 中 川 一 郎	ペルー及びチリにおける地殻変動と地震活動の調査研究
50 年 度	理 学 部 教 授 笹 嶋 貞 雄	スンダ列島・マレーシア半島の物理地質学的研究
〃	人文科学研究所教授 河 野 健 二	地中海文化圏の社会と文化の調査
〃	霊長類研究所教授 河 合 雅 雄	エチオピアにおけるヒヒ類の種間関係、とくに種間雑種についての比較研究

佐藤幹夫教授の日本学士院賞受賞について

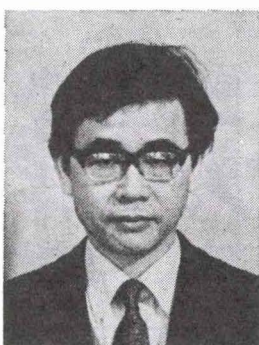
昭和51年度の日本学士院賞が、本学数理解析研究所教授理学博士佐藤幹夫氏に授与されることに

なった。

教授の受賞の対象となった研究題目は「超関数の理論とその応用」であるが、これは昭和32年以来、20年間にわたって行われた研究である。

教授は、昭和27年東京大学理学部数学科、同29

年同じく物理学科を卒業、東京教育大学大学院に4年間在籍の後、同33年東京大学助手、同35年東京教育大学講師、同38年大阪大学教授、同43年東京大学教授を歴任の後、同45年京都大学数理解析研究所教授となり、現在に至っている。



教授の業績は、数学の広い分野にわたっているが、とくに解析学において代数的手法を導入し、代数解析学という新しい視野を切り開いた点にある。

すなわち、まず複素解析函数の実境界値として、一変数超函数論の明解な理論を構成し、豊かな応用を示した。続いて多変数の超函数論を多様体上に構成した。また同じ頃、線型微分方程式系を、微分作用素の作る非可換環の層を係数とする加群としてとらえるなどの、代数的定式化をも始めた。一方、二次形式を概均質ベクトル空間の理論

として構成し、整数論や幾何学へ応用して重要な結果を得た。

さらに昭和44年頃、超函数の特異性を詳しく解析するために、コタンジェント・バンドル上にマイクロ・ファンクションの層を導入し、佐藤の基本定理と呼ばれる重要な結果を導いた。引き続き、多くの研究協力者と共に線型偏微分方程式系の代数的構造の研究を進め、とくに河合隆裕、柏原正樹両氏との共著論文 *Microfunctions and Pseudo-differential Equations*, Lecture Notes in Mathematics, No. 287, 1971, Springer-Verlag において革新的な基礎理論を構成した。

現在も教授は、自ら開発した超局所解析の手法を用いて、数学と理論物理学の諸分野に新たな探求の目を向けている。さらに教授の指導によって、多くの若い研究者が、活発な研究活動を行っていることは、教授のもう一つの大きな業績である。

以上のような研究・教育の両面にわたる業績を考えると、同教授の今回の学士院賞受賞はまことに喜ばしい。今後の教授の研究の発展が期待される。
(数理解析研究所)